

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名： **医学部保健学科**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 ・Computer based testing (CBT)本格実施にむけて、問題作成とコンピュータへの入力作業を行う。学生の学習目標到達度(DP到達度)評価のひとつとして、平成24年度から卒業前に国家試験より高いレベルのCBTを本格的に実施する予定であり、その準備作業である。 ・看護基礎教育の目標到達度評価のためのCBT問題の作成とコンピュータへの入力作業を行う。看護学専攻では、平成23年度入学生からカリキュラムを変更し、生命科学と看護の基礎知識を充実・強化した。基礎知識の習得度を評価するため、平成24年度から2年次の終わりにCBTを行うための準備を行う。 ・看護学専攻の一般入試前期日程の倍率向上を図るための対策を協議する。その一環として、個別学力試験の科目変更を協議・決定するとともに、オープンキャンパスや「学科長と語る会」を活用して、受験生にアピールしていく。 ・留年者を最小限に抑えるため、科目の位置づけ、教育方法と成績評価方法の見直しを行う。	・Computer based testing (CBT)本格実施にむけて、国家試験レベルの問題を使ったCBTは検査技術科学専攻では実施、放射線技術科学専攻ではコンピュータへの入力作業を完了した。岡山大学独自の問題は3専攻とも作成中である。 ・看護学専攻では国家試験レベルの問題を使ったCBTを実施するとともに、聖路加看護大学が中心になって行っている独自問題を使ったCBTを実施した。平成23年度入学生から改正した看護学専攻カリキュラムの教育目標達成度評価のためのCBT問題は作成中である。 ・「学科長と語る会」には高校生が20名以上訪れた。その成果もあってか、平成24年度入試では推薦入試、一般入試(前期日程、後期日程)とも2倍を超え、合格者の学力レベル高いレベルを維持できた。 ・留年者を最小限に抑えるため、科目の位置づけ、教育方法と成績評価方法の見直しを行ったが、予想以上に学生の意欲が乏しく、さらに成績評価方法を工夫することになった。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 ・平成22年度と同様、各専攻の卒業研究の発表会を公開形式で行う。	・各専攻の卒業研究の発表会を公開形式で行い、非常に内容が豊富で好評であった。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 ・タイ、マハサラカム大学看護学部との学生交流を引き続き行う。	・平成24年3月にタイ、マハサラカム大学看護学部を教員3名と学生4名が1週間訪問し、平成24年度秋にはマハサラカム大学からも教員が岡山大学を訪問することになった。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
教員全員が非常に協力的だったおかげで、管理運営は非常に円滑かつ効果的にできた。したがって、改善すべき課題は特に無いが、今後4年間で7名の医系教員が定年退職することを考慮すると、各種委員会の委員長等部局の管理運営に関係する業務を定年まで10年以上任期がある教員が担うようにする必要がある。	